

三原中学校『学び』プラン

～ より良い授業を目指して ～

目 次

◎ 学力向上を図るための全体計画・・・・・・・・・・	1 ページ
◎ 三原中「学びフェスト」・・・・・・・・・・	2 ページ
◎ 授業改善推進プランについて・・・・・・・・・・	3 ページ
◎ 評価と評定について・・・・・・・・・・	4・5 ページ
◎ 各教科の評定について	
○国　　語・・・・・・・・・・	6 ページ
○数　　学・・・・・・・・・・	7 ページ
○英　　語・・・・・・・・・・	8 ページ
○社　　会・・・・・・・・・・	9 ページ
○理　　科・・・・・・・・・・	10 ページ
○音　　楽・・・・・・・・・・	11 ページ
○美　　術・・・・・・・・・・	12 ページ
○保健体育・・・・・・・・・・	13 ページ
○技　　術・・・・・・・・・・	14 ページ
○家　　庭・・・・・・・・・・	15 ページ

令和5年度〈学力向上を図るための全体計画〉

【東京都教育委員会の教育目標】

東京都教育委員会は、子どもたちが、知性、感性、道徳心や体力をはぐみ、人間性豊かに成長することを願い、

- 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- 社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
- 自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間

の育成に向けた教育を重視する。

また、学校教育及び社会教育を充実し、だれもが生涯を通じ、あらゆる場で学び、支え合える社会の実現を図る。

そして、教育は、家庭、学校及び地域のそれぞれが責任を果たし、連携して行われなければならないものであるとの認識に立って、すべての都民が教育に参加することを目指していく。

【各教科】

- ◎各教科等においては全国学力調査の結果等を参考に、個に応じた指導の工夫・改善に努め、楽しくわかる授業を行い、確かな学力の定着を図る。
- ◎年2回実施する「生徒による授業評価」を活用し、指導と評価の工夫・改善に取り組むための授業改善推進プランを策定する。
- ◎各教科の指導においては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るとともに言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育む。
- ◎週ごとの指導計画を通して教育課程の適正な実施を管理するとともに、年間指導計画、評価計画の生徒・保護者への周知を図る。
- ◎個別の教育的ニーズに応えるための学習支援を行い、校内における特別支援教育を推進する。

【道徳】

- ◎体験に基づいた道徳的な価値観について、教師と生徒がともに学び考えながら、よりよく生きる実践的な態度の育成を目指す。
- ◎道徳教育推進教師を中心に、道徳教育の全体計画及び年間指導計画に基づき道徳の時間を確保し、継続的な学習を行う。
- ◎小学校と合同で「道徳授業地区公開講座」を開催し、小学校、保護者・地域と連携した道徳教育や心の教育を推進する。

それぞれの取組を支える

学校組織の役割

【進路指導】

- ◎学級活動や教育相談において、計画的・系統的な指導・助言を行うことにより、自己の生き方を探求させ、自己実現を図れるようにする。
- ◎地域の人材、外部講師の活用も図りながら、生徒の発達段階に応じた進路学習を実施する。
- ◎奉仕活動や職場体験を実施し、望ましい勤労観・職業観を育てるとともに、将来に対して必要な意欲や態度、能力を育てる。

【本校の教育目標】

人間尊重の精神を基調とし、豊かな社会の形成に貢献できる人間を育成する。

- やさしい人
- たくましい人
- よく学ぶ人

【学校長の学校経営方針】

＜学校経営の基本方針＞

- ・生徒一人一人の個性や特性を理解し、能力を十分に発揮するための教育環境の整備や、指導の工夫改善に積極的に取り組むことで、生徒の夢や目標の裾野を広げる。
- ・学習の「基礎・基本」を身に付けるとともに、生徒が主体的に授業に向き合う姿勢を育てることで、対話的で深い学びを実現する。そのために、全教科でタブレットPCを始めとするICT機器等の活用を積極的に取り入れる。
- ・地域に根ざした学校を創るために、家庭・地域社会との連携を密にする。
- ・教育課題に積極的に取り組める教職員組織を構築する。そのためには、教職員一人一人の個性を十分に発揮するとともに、自らの専門性の向上を目指し、研修会への参加等、自己研鑽に努める。
- ・小中一貫型教育を推進するために、行事、学校生活、教科・領域等で明確な目標を策定する。また、小学校と協力しながら系統性を考えたカリキュラムの実践に取り組む。

＜目指す学校像＞

- ・生徒にとって「安全で楽しく、夢を育める学校」
- ・保護者にとって「子供を安心して登校させることのできる学校」
- ・地域にとって「協同の精神を基調とし、共に歩むことのできる学校」

《教育活動の全体の柱》

生徒一人一人をよくめんどろみ かわいがり あゆませる

【八丈町教育委員会の教育目標】

八丈町教育委員会は、本島の持つ特性を活かし、子どもたちが、知性、感性、道徳心や体力を育み、人間性豊かに成長することを願い、互いの人格を尊重し、思いやりのある人、社会の一員として、社会に貢献しようとする人、自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人の育成に向けた教育活動を行う。

また、学校教育及び社会教育を充実し、生涯を通じ、あらゆる場で学び、支え合える社会の実現を図る。

そして、家庭、学校及び地域のそれぞれが責任を果たし、連携して、すべての町民が教育に参加することを目指していく。

【総合的な学習の時間】

- ◎「共に生きる」をテーマとし、自分を取り巻いている人や地域、社会と積極的に関わることで自己の生き方を深く考えさせ、国際社会の中で生き抜く態度や能力を育成するとともに、郷土に対する理解を深めさせる。
- ◎総合的な学習の時間のねらいに基づいた全体計画の下、評価や指導体制をさらに工夫し、充実した学習を行う。
- ◎学び方を学ぶ学習や体験に基づいた生き方の探求を、職場体験や奉仕活動及び地域調査等において重視する。
- ◎地域の文化施設や人材の教育力を有効に活用した教育活動を展開する。
- ◎総合的な学習の時間を中心に情報モラルを身に付ける。学校図書やICT機器を使用しながら、情報収集能力や情報通信ネットワークを適切に活用する資質や能力、態度を育成する。
- ◎意見発表会や学習発表会を通して、主体性・表現力を育む。

【特別活動】

- ◎生徒一人一人に個性や能力を発揮させることにより、成就感や連帯感を味わわせるとともに集団生活の向上を図る意欲や態度を育てる。
- ◎学校行事の運営、環境保護活動等、生徒の主体的な活動を重視し、創造力・表現力・実践力を高める。
- ◎諸活動の充実により、生徒の心身の調和のとれた成長・発達を促す。
- ◎生徒会活動・部活動等の異年齢集団活動を通して、豊かな人間関係を育む。

【生活指導】

指導のねらい

- ◎ 学校生活のあらゆる場面において、生徒が自己存在感を実感できるような指導を目指す。
- ◎ 教職員と生徒、生徒同士が自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる相互秩序的で共感的な人間関係をつくり上げる。
- ◎ 学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図り、生徒が様々な学習場面において、自己決定ができる場を広げることができるようにする。
- ◎ 教職員が支援を通して、お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活が送れるような風土を、生徒自らがつくり上げることができるようにする。

具体的な取組

- ◎ 教職員間で密に情報共有を図りながら、継続的な生徒理解（専門的・客観的・共感的理解、児童の権利に関する条約の理解、こども基本法の理解）に努める。
- ◎ 集団指導と個別指導の相互作用により、生徒の力を最大限に伸ばし、生徒が社会で自立するために必要な力を身に付けさせる。
- ◎ 組織的な対応を基盤とし、諸課題における早期解決、再発防止を徹底するとともに、発達支持的生徒指導や課題未然防止教育においても、学校全体で取組を進める。
- ◎ 家庭や地域及び関係諸機関等との連携・協同を緊密にし、生徒の健全育成という広い視野から地域全体で取り組んでいくようにする。

＜授業改善に向けた視点＞

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究・研修の工夫	評価の工夫	家庭や地域との連携の工夫
◎少人数学級を生かして一人一人にきめ細かな指導を行う。 ◎一斉指導の中にも個に応じた指導を取り入れ、学力の向上を図る。	◎各教科等の授業時数を確保する。 ◎職場体験、奉仕活動等の体験を重視した教育活動を行う。	◎小中一貫型教育校として、各教科等の9年間を見通したカリキュラムを作成、活用した教材研究や教材開発、指導方法等の工夫を行う。	◎観点別学習状況の評価をもとに指導と評価の一体化を図る。 ◎公開授業や学校公開期間における外部評価を授業改善に生かす。	◎保護者会、学校だより、学級だよりなどを活用し、家庭への情報発信をするとともに、授業に関する質問等へ積極的に答えていく。 ◎学習内容に応じて地域人材の活用を図り、指導効果を高める。

三原中の『学びフェスト』

※『学びフェスト』とは、政策を有権者に示すマニフェストと同じように教育を受ける生徒やその保護者に対する各教科等からの公約・宣誓です。

教育目標

●やさしい人 ●たくましい人 ●よく学ぶ人

〈道徳〉 生きる力の核となる豊かな心の育成を目指します。 ★そのために・・・ 系統だった授業を行い、生徒の体験に基づいた心情を引き出させます。	〈特別活動〉 生徒の創造力や実践力を高めさせます。 ★そのために・・・ 行事の運営等、生徒の主体的な活動を充実させます。	〈総合的な学習の時間〉 学び方を身に付けさせ、自己の生き方を深く考えさせます。 ★そのために・・・ 調べたり体験したりしたことをわかりやすく表現し発表する活動を充実させます。
〈国語〉 基礎学力の向上のため、語彙力を身に付けさせます。特に、漢字・読解力に力を入れていきます。 ★そのために・・・ 毎回の授業で漢字に取り組む時間を設け、漢字の力を定着させていきます。また、言語活動を充実させるような読みの授業を行います。	〈社会〉 語句を覚えるだけではなく、時代の流れや地域の特性に着目して、考えながら学ぶ習慣を育成します。 ★そのために・・・ 「なぜ」と思う姿勢を大切に、出来事の背景や影響を資料等から読み取る力を身に付けさせます。また、資料を多用した理解の深まる解説を行います。	
〈数学〉 基礎となる計算力を付け、数学的な思考力や判断力を高めさせます。 ★そのために・・・ 授業に反復練習を取り入れ、できるまで丁寧に指導し、達成感を与えて学習意欲を向上させます。また、授業内に学び合い・話し合いや発表の時間を設定します。	〈理科〉 自然事象への興味・関心をもち、意欲を高めるとともに科学的思考を深めさせます。 ★そのために・・・ 実験や観察の充実を図り、実験、観察の成功よりもそれまでの過程やなぜ失敗したのかを思考させる力を養います。グループ学習や実験を通して学び合いや意見交換を行います。	
〈英語〉 基礎的・基本的な学力を定着させ、外国語への興味・関心を高めます。 ★そのために・・・ 恥ずかしがらずに英語を話せる雰囲気をつくります。発表の時間を多くとり、英語を使う時間を増やしていきます。単語テストやリスニングテスト、スピーキングテストなどを行うことで、定着を図ります。	〈音楽〉 音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばします。 ★そのために・・・ 実技テストを行い、単元の目標達成に向けて指導していきます。生徒が主体的に表現の方法を考えられるように声を掛けます。音楽や発表を聴いて感じたことを自分の言葉で表現できるように、言語活動を充実させます。	
〈美術〉 造形的な見方・考え方を働かせて生活や社会の中の美術や文化と関わることができるようにさせ、豊かな情操を培います。 ★そのために・・・ 豊かな発想や創造的な表現を引き出し、作品制作に熱中できるように題材を工夫します。また、さまざまな作品の鑑賞を通して、美意識を高め、伝統や文化の良さや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深められるようにします。	〈保健体育〉 「わかる・できる・楽しい」を味わえるようにします。 ★そのために・・・ ・生徒の実態に応じた学習計画を立てます。 ・振り返りをしながら修正を加えていきます。 ・生徒が主体的に学習に取り組める環境を提供します。 ・コーディネートに徹します。	
〈技術科〉 日常生活に必要な技術と知識を習得し、日常生活と技術との関わりについて理解を深めさせます。 ★そのために・・・ 日常生活との関わりを意識させながら、授業ごとに到達目標と意義を明確にし、基礎的・基本的な知識と技術を教えます。	〈家庭科〉 自らの生活に生かせる基礎的な知識と技術の定着を目指します。 ★そのために・・・ 実践的・体験的な活動や実習を多く取り入れます。学習意欲を高め、家庭科を生活で生かす方法を考える時間を設けます。	

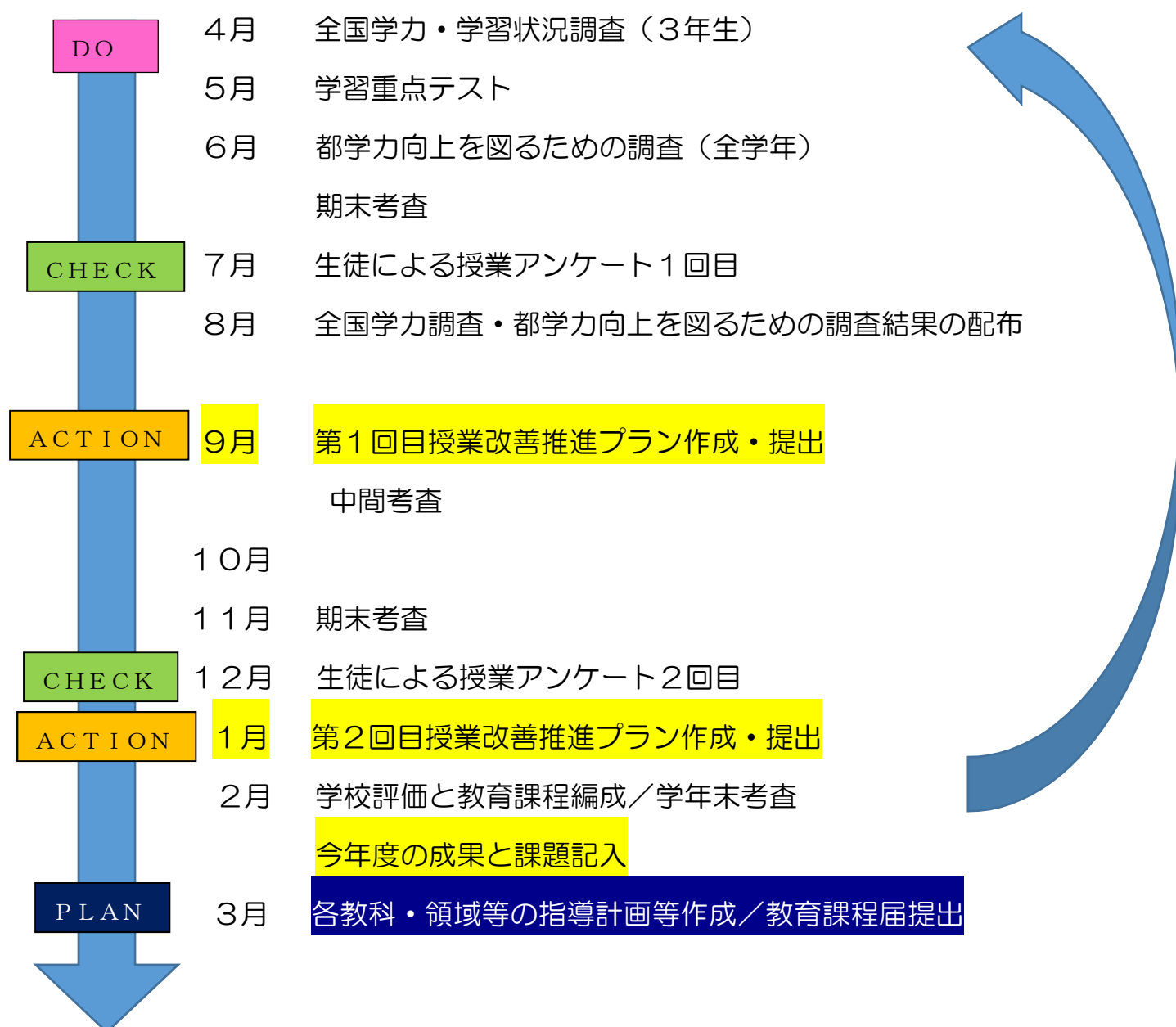
<教員は次のような学習指導や生活指導に努めます>

- 個に応じた工夫ある授業を展開します。
 - ・指導後の評価を大切にすることで、生徒に達成感や成就感を与え、次の意欲を引き出します。
 - ・授業の流れや目標を明確に示し、生徒の主体的な学びを促します。
- 一人一人をよく理解し、問題や変化に素早く対応します。
 - ・生徒一人一人の気持ちを大切にしながら、言葉に耳を傾けます。
 - ・生徒の発言、行動、服装等、課題があると判断したらその場で対応します。

<保護者の皆様へご協力をお願い>

- よりよい生活習慣を身に付けさせてください。
 - ・朝食を食べてから登校できるよう、ご協力ください。
 - ・睡眠時間を十分に確保するため、就寝時間や起床時間にご配慮ください。
 - ・清潔な服装で、身だしなみを整えて登校させてください。
- 家庭学習の時間（学年×1時間）を確保できるようご配慮ください。
- お子様の学校生活、日常生活のことでご心配な点、ご質問等がありましたらいつでもご相談ください。

授業改善スケジュール（PDCA サイクル）について



- 9月に第1回目の授業改善推進プランを公表します。
- ・ 1学期の授業の様子、学力調査の結果等を踏まえ、7月の生徒授業アンケートの実施結果から、生徒の実態と課題、指導の手立てを入れて、授業改善推進プランを作成します。
- 1月に第2回目の授業改善プランを公表します。2回目の生徒授業アンケートや2学期の生徒の変容を踏まえて、2学期までの成果と課題、指導の手立てを入れて作成します。
- 3月に、1年間の成果と課題を入れて、授業改善推進プランを完成させます。
それを受けて、次年度の指導計画等を作成します。

評価・評定について

令和３年度から新学指導要領が完全実施となり、次のように成績をつけるようになりました。

３観点をそれぞれ A、B、C の３段階で評価したものをもとに、
５～１の５段階評定をつける。

評価の場面や方法を工夫して、生徒の皆さんのよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにします。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容のまとまり（例えば、「技術科・材料と加工の技術分野・木材の性質」といった単元・題材）を見通しながら、学習の過程や成果を評価できるようにします。

１ 観点別学習状況の評価について

(1) 「知識・技能」の評価について

学習の過程を通して身につけた知識及び技能の習得の状況について評価します。また、身に付けた知識及び技能を、これまでに身に付けたものと関連づけて活用する中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度の知識を理解したり、技能を習得しているかについても評価します。

(2) 「思考・判断・表現」の評価について

知識及び技能を活用して課題を解決することなどに必要な思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

知識及び技能を習得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかを評価します。

(4) 各教科の学習評価の材料等については、別紙の「学びプラン」に記載されています。

２ 評価と評定の関係について

(1) 観点別評価（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）はすべての観点において、おおむね次のようになります。

「A」は 80～100%

「B」は 50～80%（未満）

「C」は 50%（未満）とします。

(2) 評定は、観点別評価を総括して、おおむね次のようになります。

「5」は 90～100%

「4」は 80～90%（未満）

「3」は 50～80%（未満）

「2」は 20～50%（未満）

「1」は 20%（未満）となります。

したがって、

- ・オール A (AAA) では「4」または「5」になります。AAB でも「5」になることもあります。
- ・オール B (BBB) は必ず「3」になります。
- ・オール C (CCC) は「1」または「2」になります。

このため、観点別評価のパターン(ABB など)が同じでも評価が異なることがあります。

達成度	観点別学習状況の評価		評 定	必修	
100%	十分満足できる	A	特に程度が高い	5	…100%
80%	おおむね満足できる	B	十分満足できる	4	…90%
50%	努力を要する	C	おおむね満足できる	3	…80%
			努力を要する	2	…50%
			一層努力を要する	1	…20%

3 その他

- (1) 学習評価は、評価目標に準拠した評価（絶対評価）で行われています。この評価方法は、他の人と比べる（相対評価）のではなく、決められた学習目標に達成しているかどうかで評価する方法です。各教科（9 教科）には評価規準があり、評価基準は、各教科の評価規準の達成度を表します。

規準・・・学習指導要領に示された目標に照らして、具体的な各学習内容に即した評価の目標を明らかにしたもの。

基準・・・判定の尺度を表すもの（評価の資料等とその達成度を示すもの）。

- (2) 3 年生の 2 学期の評価・評定は、1, 2 学期を総合した成績で行います。
- (3) 学年末評価・評定は、1, 2, 3 学期を総合した成績で行います。
- (4) 指導と評価の一体化の観点から、令和 5 年度から実技教科（保健体育、音楽、美術、技術家庭）では定期考査を実施せず、授業のみで評価いたします。
- (5) 総合的な学習の時間、道徳科の評価は、文章で表します。

国語科 評価・評定について

1 評価規準

・観点別学習状況の「B」に相当するのが、評価規準です。

単元	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
(例) 学びをひらく シンシユン (1年)	評価内容 ○事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 →登場人物の心情や行動を表す言葉に着目して作品を読み進めている。	○「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 →場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。	○場面の展開について、描写を基に積極的に捉え、学習課題に沿って感想を交流しようとしている。

2 評価方法

① 次の資料を総合して評価します。

- ・定期考査
- ・聞き取りテスト
- ・暗唱テスト
- ・授業中の様子（発言・聞く態度・主体的に学ぶ姿勢）等
- ・提出物（私の本）等

② 観点別評価と各評価との関係

観点別評価で、各資料がどのくらいのウェイトを占めるかを示しています。

◎・・・とても重視する ○・・・重視する

学習活動	観点	観点①	観点②	観点③
定期考査		◎	◎	
暗唱テスト		○		○
聞き取りテスト			○	
授業中の様子		◎	◎	◎
提出物点		◎	◎	○

数学科 評価・評定について

1 評価規準

・観点別学習状況の「B」に相当するのが、評価規準です。

単元	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
(例) 1 章 正負の数 (1 年)	評価内容		
	○正負の数の必要性和意味を、具体的な場面と結び付けて理解している。 ○反対の性質をもつ量や基準との違いを読み取ることができる。 ○正負の数の加法・減法・乗法・除法の意味を理解し、計算できる。 ○加法や乗法の交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、いくつかの数の加法を工夫して計算できる。 ○累乗の意味を理解し、正負の数の累乗の計算ができる。 ○正負の数の四則の混じった式の計算順序を理解し、計算ができる。	○正負の数の加法を、基準値からの移動をもとにして考え、説明することができる。 ○正負の数の加法と減法の混じった式を、項の和とみることができる。 ○正負の数の乗法を、なぜそうなるのか説明することができる。 ○分配法則が成り立つことを理解し、具体的な場面で正負の数を使って表したり処理したりすることができる。 ○正負の数を利用して、身長の平均を工夫して求める方法を考え、説明することができる。 ○身のまわりの問題を、正負の数を利用して解決することができる。	○正負の数の必要性和意味を考えようとしている。 ○正負の数の大小関係を考えようとしている。 ○正負の数の加法・減法・乗法・除法の計算方法を考えようとしている。 ○正負の数の四則の混じった計算の計算方法を考えようとしている。 ○数の範囲と四則計算の可能性の関係を調べようとしている。 ○正負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○正負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

2 評価方法

① 次の資料を総合して評価します。

・定期考査 ・ワーク ・小テスト
・レポート ・プリント ・授業点（振り返りプリントなど） 等

② 観点別評価と各評価との関係

観点別評価で、各資料がどのくらいのウェイトを占めるかを示しています。

◎・・・とても重視する ○・・・重視する

学習活動	観点	観点①	観点②	観点③
定期考査		◎	◎	
小テスト		○	○	
レポート			◎	◎
プリント		○	○	○
授業点（振り返りプリントなど）				◎

英語科 評価・評定について

1 評価規準

・観点別学習状況の「B」に相当するのが、評価規準です。

単元	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
(例) Lesson 2 My Dream (2年)	評価内容 「聞くこと」 ○不定詞の用法を理解し、教科書本文の内容を聞いて理解することができる。 「話すこと」 ○不定詞の用法を理解し、話す活動において正しく活用することができる。 「読むこと」 ○不定詞の用法を理解し、本文の内容を読んで理解することができる。 「書くこと」 ○本単元で出てくる英単語を理解し、正しく活用することができる。	「話すこと」 ○相手が理解できるように、標準的な発音、イントネーションで表現することができる。 「話すこと・書くこと」 ○不定詞の用法を使って正しく英語を表現することができる。 ○読み聞きした英語に対して、正しく応答することができる。また、それに対して自分の意見を述べるすることができる。 ○発表活動において、自分の考えをまとめた英文で正しく表現することができる。	○外国語やその国や地域の文化に興味をもち、積極的に授業等に取り組んでいる。 ○わからないことは質問する、自分で調べるなどして、自ら課題解決をしようとしている。 ○自分の課題を把握し、改善に努めるようとしている。 ○結果につながるような取り組みをしている。

2 評価方法

① 次の資料を総合して評価します。

・定期考査 ・リスニングテスト ・音読テスト ・単語テスト ・スピーキングテスト
・スピーチ、スキットなどの発表 ・ALTとの会話 ・授業での様子 ・提出物の仕上がり など

② 観点別評価と各評価との関係

観点別評価で、各資料がどのくらいのウェイトを占めるかを示しています。

◎・・・とても重視する ○・・・重視する

学習活動	観点	観点①	観点②	観点③
定期考査		◎	○	
リスニングテスト		○		○
音読テスト		○		
単語テスト		○		
スピーキングテスト			◎	
スピーチ、スキットなどの発表			◎	○
ALTとの会話			○	○
授業での様子（積極性・態度等）				○
提出物の仕上がり		○		

社会科 評価・評定について

1 評価規準

・観点別学習状況の「B」に相当するのが、評価規準です。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
	評価内容		
(例) 第2章 古代までの日本 (1年)	○世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。 ○日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷（大和政権）による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解している。 ○律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。	○古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明や宗教のおこりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ○農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本列島における国家形成について、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ○東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	○世界の古代文明や宗教のおこりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○日本列島における国家形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○律令国家の形成、古代の文化と東アジアとの関わりについて、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

2 評価方法

① 下記の資料を総合して評価します

- ・定期考査（学習重点テストを含む） ・小テスト ・ワークシート ・ノート ・レポート
- ・自己評価（ふりかえりシート） ・授業中の課題に取り組む態度 等

② 観点別評価と各評価との関係

- ・観点別評価で、各資料がどの位のウェイトを占めるかを示しています。

◎・・・とても重視する ○・・・重視する

学習活動 \ 観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	◎	◎	
小テスト (※1)	◎	○	
レポート・作文 (提出物を含む)	○	◎	○
授業の課題への取組 (※2)		○	◎
ノートの記述と活用		○	◎
自己評価 (学習のふりかえりシート)			◎

(※1) 内容のまとまりごとにプリントまたはタブレット PC で定期的実施します。

(※2) 発問に対する応答やグループ学習・プレゼンテーション活動などの取組状況。

理科 評価・評定について

1 評価規準

・観点別学習状況の「B」に相当するのが、評価規準です。

単元	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
(例) 単元 1 生物の世界 (1年)	評価内容		
	○ルーペや双眼実体顕微鏡、顕微鏡を操作して観察し、正しい手法でスケッチしている。	○観察した生物の特徴をいくつか書き出し、共通点と相違点を見だし、表現している。	○校庭の生物を観察し、レポート作成の課題を通じて、科学的に探求しようとしている。
	○分類の観点や基準を複数あげて、分類の結果を図や表にしている。	○いくつかの観点や基準で、それぞれの生物を当てはめて分類し、結果をまとめ、表現している。	○身近な花を分解し、観察することで、様々な花の相違点に気づき、共通するつくりについて主体的に学習しようとしている。
	○被子植物と裸子植物を比較して特徴の相違点を理解している。	○身近な花のつくりの相違点を見だし、まとめている。	○習得した知識を活用して、植物と動物を分類し、まとめようとしている。
	○脊椎動物の5つのグループの特徴と生活の仕方を理解し、知識を身に付けている。	○脊椎動物の5つのグループの特徴が生活の仕方などに関連していることを指摘しながらまとめている。	○脊椎動物、無脊椎動物を解剖し、観察することで、体の特徴を調べ、まとめようとしている。
	○植物と動物のもつ共通点や相違点をあげて、動物を分類するための知識を身に付けている。	○観点をとおさえて、植物と動物の分類についてまとめ、表現している。	○脊椎動物、無脊椎動物の特徴を調べて表にまとめ、分類し科学的に探求しようとしている。

2 評価方法

① 次の資料を総合して評価します。

・定期考査 ・単元小テスト ・実技テスト ・実験プリント ・レポート
 ・授業点 ・提出物点 等

② 観点別評価と各評価との関係

観点別評価で、各資料がどのくらいのウェイトを占めるかを示しています。

◎・・・とても重視する ○・・・重視する

学習活動	観点	観点①	観点②	観点③
定期考査		◎	◎	
単元テスト		○	○	
パフォーマンステスト		◎	◎	
ワークシート		○	○	○
レポート		○	◎	○
行動観察				◎
学習カード				◎

音楽科 評価・評定について

1 評価規準

・観点別学習状況の「B」に相当するのが、評価規準です。

単元	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
(例) 曲のイメージにふさわしい表現を工夫しよう (1年)	評価内容 「知識」 ○曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 「技能」 ○創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方等の技能を身に付け歌唱で表現している。	○旋律、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	○歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

2 評価方法

① 次の資料を総合して評価します。

・実技テスト ・作品（創作） ・ワークシート ・授業点 ・自己評価 等

② 観点別評価と各評価との関係

観点別評価で、各資料がどのくらいのウェイトを占めるかを示しています。

◎・・・とても重視する ○・・・重視する

学習活動	観点	観点①	観点②	観点③
ワークシート		○	○	○
実技テスト		◎	○	○
作品（創作）		○	○	○
授業態度				○
自己評価				○

美術科 評価・評定について

1 評価規準

・観点別学習状況の「B」に相当するのが、評価規準です。

単元	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
(例) ピクトグラム (3年)	【知識】 形等の性質及びそれらが感情にもたらす効果や、場所や造形的な特徴等を基に、全体のイメージで捉えることを理解している。 【技能】 意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序等を総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表している。	【発想・構想】 学校生活をよりよくするために、伝える相手や場所のイメージなどから主題を生み出し、形等が感情にもたらす効果や、分かりやすさと美しさとの調和などを総合的に考え、表現の構想を練っている。 【鑑賞】 伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図や創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	【態度(表現)】 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に主題を生み出して構想を練り、意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとしている。 【態度(鑑賞)】 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に伝達のデザインの調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫等について考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

2 評価方法

① 次の資料を総合して評価します。

- ・ 作品
- ・ 発想／構想シート
- ・ 授業の様子
- ・ ワークシート
- ・ 鑑賞シート など

② 観点別評価と各評価との関係

観点別評価で、各資料がどのくらいのウェイトを占めるかを示しています。

◎・・・とても重視する ○・・・重視する

学習活動	観点	観点①	観点②	観点③
作品		◎	◎	◎
発想／構想シート			◎	◎
授業の様子		◎	◎	◎
ワークシート		◎		◎
鑑賞シート			◎	◎

保健体育科 評価・評定について

1 評価規準

・観点別学習状況の「B」に相当するのが、評価規準です。

単元	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
(例) 陸上競技 (1年)	評価内容 【知識】 ○陸上競技は、自己の記録に挑戦したり、競争したりする楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり、書き出したりしている。 ○陸上競技の各種目において用いられる技術の名称がありそれぞれの技術で動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ○陸上競技は、それぞれの種目で主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。 【技能】 ○クラウンチングスタートから徐々に上体を起こしていき加速することができる。 ・自己にあったピッチとストライドで速く走ることができる。 ○リレーでは次走者がスタートするタイミングやバトンを受け渡すタイミングを合わせることができる。	○提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来栄を伝えている。 ○提供された練習方法から、自己の課題に応じて、動きの習得に適した練習方法を選んでいる。 ○練習や競争する場面で、最善を尽くす、勝敗を受け入れるなどのよい取り組みを見付け、理由を添えて他者に伝えている。 ○学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ○体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、仲間に伝えている。	○陸上競技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ○勝敗等を認め、ルールやマナーを守ろうとしている。 ○用具の準備や後片付け、記録等の分担した役割を果たそうとしている。 ○仲間の課題や挑戦を認めようとしている。 ○健康・安全に留意している。

2 評価方法

- ① 次の資料を総合して評価します。
- ・学習ノート、振り返りカード（知・思・態）
 - ・習得状況、到達度（技）
 - ・単元確認テスト（知・思）
 - ・行動観察（知・思・態）等
- ② 観点別評価と各評価との関係
- 観点別評価で、各資料がどのくらいのウェイトを占めるかを示しています。
- ◎・・・とても重視する ○・・・重視する

学習活動	観点	観点①	観点②	観点③
学習ノート、振り返りカード		◎	◎	◎
習得状況、到達度		◎		
単元確認テスト		◎	◎	
行動観察		◎	◎	◎

技術科 評価・評定について

1 評価規準

・観点別学習状況の「B」に相当するのが、評価規準です。

単元	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
(例) A 材料と加工に関する技術 (マルチラック制作)	評価内容 ①適切な図法を用いて、制作に必要な図を描くことができる技能を身に付けている。 ②工具や機器を使用して、安全・適切に材料を取り、部品加工、組み立て・接合、仕上げや、検査等ができる技能を身に付けている。	①生活の中から材料と加工の技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして、課題解決する力を身に付けている。	①よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、材料と加工の技術を工夫し創造しようとしている。

2 評価方法

- ① 次の資料を総合して評価します。
- ・単元テスト ・実技テスト ・実技（作品） ・学習カード ・授業プリント など
- ② 観点別評価と各評価との関係
- 観点別評価で、各資料がどのくらいのウェイトを占めるかを示しています。
- ◎・・・とても重視する ○・・・重視する

学習活動	観点	観点①	観点②	観点③
単元テスト		◎	◎	
実技テスト		◎		
実技（作品）		◎	◎	
学習の振り返りフォーム		◎	◎	◎
行動観察		○	○	○
ワークシート、レポート		◎	◎	

家庭科 評価・評定について

1 評価規準

・観点別学習状況の「B」に相当するのが、評価規準です。

単元	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
(例) 食 事 の 役 割 と 食 習 慣	評価内容 「知識」 ○食事の基本的な役割と栄養素の種類が理解できる。 ○食品の表示と保存方法が理解できる。 「技能」 ○食事摂取基準をもとに、1日分の献立を立てることができる。 ○状況にあった食品の選択と保存ができる。	○自身の生活や好みに応じて食事の計画を立てることができる。 ○食生活から問題点を見いだして、解決策を考え、生活で生かす方法を考えることができる。	○自分の食生活に関心をもち、学習内容をもとに生活を振り返っている。 ○自分の生活に生かして、生活を工夫し実践しようとしている。

2 評価方法

① 次の資料を総合して評価します。

・単元テスト ・実技テスト ・製作物 ・レポート ・学習カード(授業の振り返り) など

② 観点別評価と各評価との関係

観点別評価で、各資料がどのくらいのウェイトを占めるかを示しています。

◎・・・とても重視する ○・・・重視する

学習活動	観点	観点①	観点②	観点③
単元テスト		◎	○	
実技テスト		◎		
製作物		◎	○	
製作過程の記録			○	◎
レポート			◎	○
学習カード(授業の振り返り)				◎